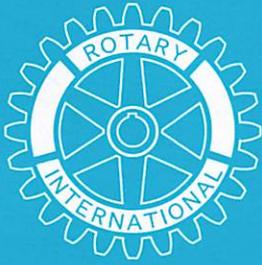


THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY 名古屋 ちくさ

題字 伊藤昌石

名古屋千種ロータリークラブ
承認 1982年 8月24日
例会日 火曜日 12:30
例会場 名古屋東急ホテル
事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
会長 足立 一郎
幹事 河合 隆史
公営イメージ委員会 谷口 優

No.25 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために
SERVE TO CHANGE LIVES

2021 ~ 2022 年度

RI会長
シェカール・メータ

本日の例会

第 1851 回 2022 年(令和 4 年) 5 月 10 日(火)
卓話: 『南海トラフの巨大地震に備える』
地区防災対策委員会 委員 中村 公彦 様

前回の例会

第 1850 回 2022 年(令和 4 年) 4 月 19 日(火) 晴
友愛の日

- ◆奉仕の理想
- ◆四つのテスト
- ◆ゲスト紹介 1名
米山奨学生 文都日娜(ウンドリナ)さん
- ◆出席報告
正会員 30(26)名 出席 23名
出席率 88.46%

お誕生日おめでとございます

- ☆5月会員誕生日お祝い
長谷川 亨君 (5/2) 小山 雅弘君 (5/15)
鈴木 聖三君 (5/30)
- ☆5月結婚記念日お祝い
大口 弘和君 (5/23) 鈴木 聖三君 (5/28)



河合幹事報告

1. 本日配布案内: ①次年度クラブ計画書原稿依頼
2. 次週は休会です。次回例会は、5月10日東急ホテル 3F「錦の間」が会場です。
3. 4月理事役員会承認報告

足立会長挨拶

本日は、ゲストに2022学年度 米山記念奨学生 ウンドリナさんをお迎えしています。ようこそお出で下さいました。ごゆっくりお過ごしください。

最近、街中も以前にもまして、人の流れも多く、動き始めました。4月17日に3年ぶりに名古屋国際会議場で2022-23年度の地区研修・協議会が開催されました。出席された会員の皆様は、お疲れ様でした。後程、各分科会の報告をお願い致します。

◆2022学年度米山奨学生 文都日娜さん紹介



文都日娜(ウンドリナ)
名古屋大学大学院人文学研究科
博士後期課程2年

自己紹介

私は中国内モンゴル出身のウンドリナと申します。モンゴル人です。

現在名古屋大学大学院人文学研究科博士後期課程2年生です。

趣味は音楽を聴くことです。旅行や勉強も好きです。家族は夫と5歳の娘と3人です。夫は2020年に広島大学大学院博士後期課程を修了しその年の年末頃に求職のため、内モンゴルに帰っており、私は5歳の娘と日本に暮らしております。

私は2007年来日し、仕事としてはいろいろやらせていただきましたが、当時早く日本の社会に馴染みたいと思い、主に接客の仕事をしておりました。そして通訳や免税手続きなど、語学力(日本語、モンゴル語、中国語、英語)を生かせる仕事もしておりました。日本に外国からのお客様が多く、通訳が必要となる状況の中で、自分が役に立つことができ、とてもうれしく思っておりました。

研究については、これまで「ナル表現」について研究をしてきました。修士課程では日本語の「ナル」とそれに相当する英語の3動詞(become, turn, grow)の使い分けについて研究し、博士課程一年目には日本語の「ナル」(ナル表現)とそれに相当するモンゴル語の“bolqu”(ナル表現)について研究をしてきました。日本語もモンゴル語も同じく「なる言語」ですが、「ナル」(ナル表現)に関しては相違点もみられるため、とても興味

深い。そのため、「ナル表現」に関して言葉の背景にある文化の側面からそれぞれどのような特徴（表現の仕方）があるのかというのを探究していきたいと考えております。将来、高度な知識を持った研究者になり、日本と母国の架け橋になり、日本語教育に貢献したいと考えております。

この度、ロータリー米山奨学金をいただけること、そしてこれから皆様にお世話になること、皆様と交流できることをとても光栄に思っております。皆様に御礼とよろしくお願いを申し上げます。

◇4月奨学金の授与



クラブフォーラム / 地区研修・協議会報告



IMAGINE
ROTARY

国際ロータリー第 2760 地区
2022-23 年度 地区研修・協議会
ホストクラブ：
西尾 KIRARA ロータリークラブ

- 4月17日(日) 会場/名古屋国際会議場
本会議 13:00~14:20 センチュリーホール
分科会 14:35~16:05 分科会会場
本会議 16:20~16:50 センチュリーホール

◆各分科会報告

◇ 第1分科会

林 永芳 君



籠橋ガバナーエレクトより、ロータリーの未来を目指して、私たちは時代と共に社会と共に歩んできました。ガバナーは単年度ですが、ロータリーは単年度を積み重ねて、長い間をかけて実現しようとしていることがあります。一言でいえば、世界の人を笑顔にすることです。私の方針も「笑顔でつながろう」としてあります。以上のようなご報告でした。

伊藤実行委員長からはワールドフード・ふれ愛フェスタは2760地区の日本でも有名な大きなイベントです。ポリオ基金を含んだ、2760地区の奉仕事業で、ファンドレイジング事業でもあります。皆さんで盛り上げてゆきましょう。服部組織拡大副委員長は、私たちがサポートしている分

野の人が大勢みえます。ロータリーも仲間を増やしてゆかねばならないので、今までの考え方だけでは問題を解決できません。いろいろな分野の方に援助するだけではなく、いっしょに行動する仲間になってもらってはどうかでしょう。そういう方を衛生クラブとして、存在させて、仲間をつくっていくようなことも考えてゆきましょう。重点分野はいままでの6つの分野から、7つ目の環境保全も加わりました。

寺本危機管理委員長、加藤防災対策委員長から、ロータリーの危機管理についてのお話がありました。基本的なロータリーの危機とは青少年の保護が目的です。行動指針として、①事故②感染症③災害④虐待ハラスメント⑤犯罪等から青少年を保護することです。私たちもそれにそって、災害などから守るの意識向上に努めています。石井地区会員増強委員長より、2760地区は会員5000名を目標としています。来期200名増強が目標です。そのために2つの増強の方法を考えています。①従来の方法での増強の方法強化②従来と違う増強のターゲットの選定を予定しています。①に関しては、新しい増強の武器になるパンフレットをつくります。ぜひ、ご利用ください。②は現在、全国に比べて、2670地区は女性会員が少ない。世界で25%、日本で8%、2760地区で6%です。DEIの考えを中心に2回の女性のためのロータリーのセミナーを開催します。ぜひ、新しい女性会員の増強に協力をください。また、増強セミナーも行う予定です。

最後に澤田時期ガバナー補佐より、ガバナー方針「未来を描こう、笑顔でつながろう」にそって、笑顔で進めましょうというメッセージがありました。

◇ 第2分科会

宮尾 紘司 君



副会長、SAA、会場設営委員長、プログラム委員長、クラブ奉仕委員長、親睦委員長、ロータリー情報委員長向けの分科会でありましたが、千種RCからは皆さん兼任で他分科会に出席され、私と重見さんと2人の出席でした。

1. 神野パストガバナーから「クラブの魅力アップのために」と講話がありました。例会の運営について、今迄通りの漫然とした例会を行っているか？従来通り、旧態然とした運営をしてマンネリになっていないか？もっと楽しく、そのRCの個性をもっと生かせないか？会員減少の歯止めの為、RIは会員の義務を削減しています。世情、RIの傾向等変化の激しい時こそチャンスです。個性あるクラブ運営をもっと考えてほしい。次年度地区方針に変化に対応できるクラブを目指して、とありますが周囲を変えていくくらいの気概をもってクラブ運営をしてもらいたい。次年度RIのテーマは“イマジンロータリー”イマジンそれは未来を描くことです。イマジンの歌詞より私のイメージで、ロータリーを楽しみましょう！It's easy if you try. It isn't hard to do.

2. 吉田地区研修実行委員長「クラブにおける会員研修について」これから各クラブそれぞれに組織運営方法等変化が激しくなるが必ず細則を見直して、改正を忘れないでほしい。

3. 早川地区会員増強委員「例会と新会員」

新会員に対し、ロータリーに早くなじんでもらうことが大切で、やりがい、居場所のない新入会員が早期退会することが多い。自分のクラブを好きになってもらうことが大切で、それによってこそ会員を紹介する気にもなれると思う。又、Diversity（多様性）、Equity（公平さ）、Inclusion（包摂）の基本指針のように会員は新人であろうと、ベテランであろうと公平であり、人格を認め合うことが基本です。

4. 照井地区研修実行委員長「例会を上手く進めるためには」

例会時会員を紹介したり、名前を呼ぶとき「クン」は女性会員も多くなったり、男性会員のみの名残のように感じるので「サン」で呼んだ方が良いと思う。先輩会員であろうとも、身内であるので「サマ」や「センセイ」は辞めた方が良いと思う、当クラブもこれから「サン」で統一していけば良いと思う。次年度 SAA より提言。

◇ 第2分科会

重見 有美 さん



地区研修・協議会 第2分科会「魅力あるクラブ運営を考える」に参加致しました。その中で、次期地区研修実行委員長 照井さんの“例会を上手く進めるには”のプログラムの内容は、今すぐ実践できるお話でしたのでご紹介

させていただきます。

毎週行われる例会で話す機会が多く、事前に準備をする。と言うところまでは誰もがやってらっしゃる事だと思いますが、これにプラス8つの事を心がけると苦手から得意になるかもしれません。

1. 実際に声に出して読んでみる。
2. 読みづらい箇所にはスラッシュなどを入れ区切る
3. さちこ・ゆきこ なのかなど、漢字の読みを入れる
4. 無理な敬語は使わない。（噛むと自分がどんどん落ち込む魔のスパイラルにハマる）
5. 会場の上手側・下手側を確認し、登場人物の立ち位置を把握・説明しておく。
6. 誰がどこで話すのか。
7. ゲストスピーカーの方には何時頃なのか・コーヒーがでたら。など具体的にお伝えしスピーチまで、ゆっくり過ぎて頂けるよう気配りをする。
8. 人前で話すことを楽しむ！

以上です。

◇ 第4分科会

長谷川 亨 君



第4分科会は職業奉仕委員会と社会奉仕委員会及び RC C の共同で行われました。

RCC とは国際ロータリーの常設プログラムの1つで、ロータリー地域社会共同隊と呼ばれています。ロータリーが奉仕活動を行う際に一般の方々と一緒に行うもので、2760地区では17の RCC が起動しており、これは日本の中でも最も多い地区であるそうです。ロータリークラブの活動を地域住民にアピールする絶好の場であるため、さらに多くのクラブで RCC が推進されるこ

とを期待されています。

職業奉仕については、ロータリーと他の社会奉仕団体、例えばライオンズクラブ、わかしゃち会、青年会議所等との奉仕の精神の違いについての説明がありました。

他の団体が “We serve = われわれは奉仕する” といった1人ではなくみんなで力を合わせ奉仕するといった理念を持っているのに対し、ロータリーでは、“I serve = 私は奉仕する” というのが奉仕活動の規範であり、それはロータリーが、職業を通じて社会貢献をする共通理念を持った個人が集まった団体であることを意味しております。その職業奉仕の精神を持って各地区での委員会活動に役立ててほしいとの話でした。

◇ 第5分科会

松岡 多加倫 君



私が参加した第五分科会は、「この時期だからこそ、高いハードルに挑戦しよう！～変化に対応できるクラブになろう～」というタイトルで、海外、そして地域の国際奉仕事業に、是非地区の補助金を利用して欲しいと

いうことでした。

基本的に各クラブの年次基金寄付総額の25%がでますし、最低でも基本的には5万円は支給できます。

しかしそれでは大きな奉仕事業ができないということであれば、親ロータリーや兄弟ロータリーと合同で事業を行うことにより、より大きな事業を行うことができるという説明でした。

そのケーススタディとして、まず、春日井ロータリーの国際奉仕活動の紹介がありました。姉妹ロータリーであるフィリピンのセブロータリークラブの奉仕事業に資金の提供することで共同奉仕事業としていたり、台風が直撃した後のセブ島の方々に寄付をして、良好な関係を維持しているという報告でした。

また、あまロータリークラブと津島ロータリークラブは合同で国際奉仕事業を行い、ベトナムの山岳地帯に生きる山岳民族の子供たちへ中学校の建設した事例の発表がありました。ハノイから車で九時間走り、車を降りたから5時間歩かないと到着しない村まで行って、まだまだ貧しい地域へのロータリーの奉仕活動が必要だと思った次第だと報告を聞きました。

名古屋千種ロータリークラブでもキャンヘルプタイランドを介して行っている国際奉仕事業は、タイが豊かになってきたことからカンボジアへの支援にシフトしているが、まだまだタイの貧しい地域もあると聞きます。様々なケースを考えながら地区補助金を検討しながら、国際奉仕事業を継続したいと強く感じた第五分科会でした。

◇ 第7分科会

河合 隆史 君



第7分科会の2022-23年度のテーマは「奉仕の未来を描こう青少年と共に」です。

青少年交換、RYLA、ローターアクト、インターアクトそして米山奨学生を含む幅広い学友委員会と一丸となっ

て将来のロータリアンをそして社会奉仕社会貢献できるリーダーの育成していくことの再確認でした。地区ローターアクト津曲委員長からは、以前ローターアクターはロータリアン子弟またはロータリアンの企業からの参加が多い状態でしたが現在は2760地区189人中ロータリアン企業から14人、7%、ロータリアンの子弟は10人、5%と変化しているとのことでした。またボランティア好きの若者を集めるサイトを作成して増員を図ったり、自分たちで資金を作る工夫もしており今のローターアクト世代は新しい価値観、新しい視点を持った素晴らしく光るものがあり、学ぶべき点も多いとの報告がありました。従って提唱ロータリアンはもっと接点を増やすべく委員会以外のメンバーも含め3名以上でローターアクトの例会に出席することが望まれ、また10名以上のロータリアンとともに例会を行い、且つ重要な事はその後ローターアクターと共に飲食の時間を持ちコミュニケーションを深めることで相互成長を図るべきとの事でした。従来はロータリークラブ、ローターアクトクラブ、インターアクトクラブの順に縦関係の印象が強いものでしたが、2022-23年度からはこの関係が同列の横一線の関係になります。その点でガバナーの言葉を借りますとローターアクトの運営は自立・自営に向けた活動を始める自立の初年度となります。提唱ロータリークラブにもそのかわり方に変化が求められています。

◇ 第9分科会

東原 相次郎 君



第9分科会というところで入会3年未満の会員向けの研修に参加しました。

「今日からロータリアン」というテーマのもとロータリーの組織と決まり、ロータリー財団の歴史と活動

について米山記念奨学会の基礎知識、ロータリーとは何だろう、と言った内容につきまして講義を受けました。こういった内容につきましては入会后耳にしたことがあるものの全く知らないことばかりでしたので勉強になりました。まだまだ分からないことや、知らないことばかりですので皆様よりご教授いただきまして活動して行ければと思います。

個人的には多くの先輩や友人に久しぶりに会う事が嬉しかったです。

◇ 第3分科会

足立 一郎 君



第3分科会は「公共イメージ向上を図ろう」をテーマに、尾張中央ロータリークラブの堀尾明史次期地区公共イメージ向上委員長から次年度公共イメージ向上委員会の活動方針が発表されました。

世界が必要としている奉仕活動をすることによって、公共イメージの向上につながります。奉仕活動の見直し、新しいジャンルの奉仕活動、公益性の高い奉仕活動が必要である。

ロータリーの重点分野である、平和構築と紛争予防、疾

病予防と治療、水と衛生、母子の健康、基本的教育と識字率向上、地域社会の経済発展、環境、以上7つの重点分野をロータリー奉仕デーなどで、有効に活用する。方法論の手段として、マスメディア、ソーシャルメディア等を積極的に活用する。ロータリーの活動内容を知る人はあまり多くないように見受けられるので、理解しやすい形で伝えることが大切です。また、人々の参加を促し、共感してくれる仲間を増やすことが大切であることを話して頂きました。

次に、あまロータリークラブ児玉憲之次期地区公共イメージ向上副委員長から、My Rotaryの登録と活用のお話を聞きました。My Rotaryの登録は難しくありません。My Rotaryには、クラブ運営に必要な情報やデータ、システムツールがあり、登録が完了したら、こまめにチェックすることが大切であります。

前半、最後に愛知ロータリーEクラブ稲熊茂男次期地区公共イメージ向上副委員長より「地区アプリとSNSの活用」についてお話をいただきました。公共イメージの向上とは、私たち自身が、ロータリーをどう考えるか、だけでなく外部の人々がロータリーについてどう感じているかであり、意識改革が必要である。クラブのイメージアップ、地域社会に貢献する、活気あるクラブにするといったことが重要である。ロータリアン一人一人が宣伝マンになる、個人レベルでの発信が必要である。SNSの活用。Facebook(Meta)：友達、Instagram：写真活用、Twitter：広範囲に拡散される、Youtube：動画を配信する、Tiktok：短い動画、LINE：仲間内のコミュニケーション、などたくさんのコンテンツがあり、ロータリー以外のフォロワーに対して、ロータリーについて積極的に投稿する。SNSでは、クラブ名とポジティブなことを添えてハッシュタグ#ロータリークラブをつけて投稿してみる。まずは気楽に発信することであり、ポイントは、投稿する習慣をつけ、楽しんでやることである。次に、地区のアプリケーションの説明がありました。2760地区のオリジナルアプリケーションは世界的にも初めての地区アプリケーションだそうです。このアプリによって、ガバナー月信・行事日程・クラブからのお知らせ&報告・委員会報告・クラブ検索・現在地から寄会場までのルートなど、より便利に簡単に地区の情報がゲットできます。

後半のプログラムは、蒲郡ロータリークラブ水野順也次期地区公共イメージ向上委員より各クラブへの取材報告に関してのお話でした。4つの事例を報告され、1例目は、令和3年8月22日に豊橋東ロータリークラブの「プロが教える小学生バレーボール教室」で、この事業は、地区補助金事業・青少年育成事業として行われました。この模様は、Facebook、東日新聞、中日BIZナビ、東海財界などで紹介され、名古屋テレビでは特番で放映されました。

2例目は、9月22日に渥美ロータリークラブの「桜保全事業」です。この事業は、田原市福江町にある免々田川(めめだがわ)で行われ、葦を刈込作業です。ロータリアンだけでなく地域の多くの人々の参加がありました。Facebook、東日新聞で紹介しました。

3例目は10月9日に田原ロータリークラブの「オウロードトライアスロン応援例会」の報告です。これは、田原ローターアクトクラブとの合同例会で、トライアスロンの給水場所で選手たちに給水のお手伝いや、応援をするものです。この模様は中日経済新聞で紹介されました。

4例目は、名古屋城北ロータリークラブのダウン症の人達によるダンスの発表会「HAPPY DON'S SHOW」です。地区補助金事業で行われ、地区のホームページ、Facebook、中日新聞 4/16 付、中部経済新聞に紹介されました。他のクラブの特色を知ることによって、お互いの活動の質を高める。活動をメディアに取り上げてもらうことでロータリークラブの「社会奉仕するロータリアン」として広く世間の人々に知ってもらい、メディア対応は大切である。

最後のプログラムは『「ロータリーの友」への投稿のお願い』を、名古屋東南ロータリークラブ ロータリー友委員会 尾本和弘地区代表委員からお願いのお話がありました。ぜひ、「ロータリーの友」の購読・愛読をお願いします。2022-2023年度は、新企画を考えています。9月は「ロータリーの友」月間です。これは、日本独自の月間だそうです。「ロータリーの友」は毎月400件ぐらいの投稿の依頼があり、投稿に際して、掲載写真は集合写真ではなく、何をやっているかが、よくわかる写真を撮る。カメラ目線では駄目である。内容はポイントを絞って書くといよい。また、クラブの周年式典などはNGである。

1953年1月号の創刊号から文字をデジタル化をして閲覧ができるようになります。文字のデジタル化によってたとえば千種ロータリークラブと検索すると掲載されているすべての「ロータリーの友」の中から千種ロータリークラブに関する記事などがヒットします。

第3分科会のみとめとして、名古屋千種ロータリークラブ池森由幸次期カバナー補佐より各プログラムの講評と「広報は変化しています。各委員会を活用してサポートをしてもらうことである。」とのみとめをして頂きました。

ワールドフード+ふれ愛フェスタ

4月23日・24日(土・日)10:00-17:00
栄・久屋大通り公園



以前の例会

第 1852 回 2022 年(令和 4 年)4月 14 日(木) 曇
(5月17日(火)の例会変更)

春季家族会

料亭 松楓閣 18:30

◆奉仕の理想

◆出席報告

正会員 30(26)名 出席 19名
出席率 73,08 %
(ご夫人 12 名ご参加)

河合幹事報告



1. 週末17日は地区研修協議会ですのでご登録の方はご出席よろしくをお願いいたします。
2. 次週19日は通常例会、東急ホテル3F 錦の間にて開催いたします。

足立会長挨拶



本日は、「料亭 松楓閣」が4月末で閉館することになり、5月17日に予定の春季家族例会を、日程・場所を変更して、ここ「料亭 松楓閣」に於いて春季家族例会を行います。「料亭 松楓閣」は、名古屋の覚王山の地に、1934年に建てられた数寄屋造りと庭園が調和した、市内でも指折りの日本料亭として知られてきました。

昔の建築工法は、最初に庭をつくり、次に建物をつくる手間のかかる作業工程でした。「料亭 松楓閣」も、例外ではなく、約10年の歳月をかけて完成したものとわれています。その後、第2次世界大戦、伊勢湾台風等々といろいろと試練を受けましたが、日本建築の素晴らしさでしょうか、今日まで立派にその偉容を誇っています。

正面からの、四つの破風が織りなす面構えが特徴的です。建物内部には、平安朝の美、格天井等々、昔をしのぶ良さが残っており、2階の大広間は90畳。壁と天井の接合部が曲面になっているなど趣向が凝らされています。2006年には国の有形文化財に指定されました。また、1988年には囲碁の棋聖戦が行われ、小林光一棋聖(当時)が3連覇を決めています。

千種ロータリークラブも創立以来、クラブの歴史と共に「新年例会」「最終例会」「歴代幹事会」などなど多くのご縁をいただきました。

会員の皆様には、それぞれに様々な思い出があると思います。短い時間ではありますが、懐かしいお話などを、お聞かせいただきながらご歓談いただけたらと思います。

◇福井親睦委員長挨拶



コロナ禍で親睦委員会の行事も制限が続き、秋季家族会は延期、春季家族会はどうしようかと悩んでいたところに、料亭 松楓閣が最終例会前に閉店することとなり、これは最後に設営しなければという思いから急遽、春季家族会を変更させていただきました。本日は松

楓閣と関わりが深い皆様を中心に進めますので「松楓閣」での思い出に浸る最後の時間として、短い時間ではありますが、楽しんでいただければと思っています。ありがとうございました。



◇乾杯 宮尾 紘司 君



この本館が建てられたのは1934年、私より10歳上、88年になります。蒲郡ホテルも同じ年と思います。ロータリー入会時、皆、座卓で並び一人ずつ挨拶しながら酒を注いで回った思い出があります。

千種ロータリークラブの発展と皆様のご健康、松楓閣の再生を祈念して 乾杯

親睦委員会 小山副委員長の進行で、ご出席の皆さまより料亭「松楓閣」での思い出のエピソードをご披露いただきました



◆料亭 松楓閣 大女将へ会長より花束贈呈



◇閉会挨拶 柵木 充明 君



平成6年に入会し30年近く会員ですが、ロータリークラブでは不良会員、しかし松楓閣ではまさしく優良会員でした。多くの思い出がございます。日本文化の象徴でもある料亭がコロナの影響でこのように歴史を閉じることはとても残念に思います。

また、場所を移して新しく松楓閣を再開されることですので楽しみにいたしております。



*ニコボックスは次回掲載させていただきます

次回例会： 2022年5月24日(火) 12:30 名古屋東急ホテル3階 錦の間
卓話： 『神も仏も…』 会員 吉田 玄 君